



本 庄

ロータリークラブ会報

47 - 32 第2281回 例会 3月4日(木) 2010年3月11日(木)発行

2009～10年度 国際ロータリー会長 ジョン・ケニー 第2570地区 ガバナー 加藤玄静
会長 田中 克 会長エレクト 戸谷清一 副会長 武井包光 副会長 杉山淑子 幹事 今泉憲治

《本日の例会》

卓 話

進 行 S A A
点 鐘 午後12時30分 田中 克 会長
国 歌 君が代
ソング 奉仕の理想

〔会長挨拶〕

田中 克 会長



皆様、こんにちは。本日も御苦労様です。早くも弥生3月となりました。家の庭先の梅も満開となり、また、フキノトウも大きく花開き、春が一日一日と近づいてきておるこの頃です。

さて、3月は識字率向上月間です。認識の度合いを深めましょう。

本日のお客様をご紹介します。新狭山 RC 所属、地区支援グループコーディネーターの小久保富夫様です。クラブを上げて歓迎申し上げます。のち程、卓話を御願い致します。

本庄 RC 創立50周年記念事業の一環としてネパールに学校建設する件で現地に下見に行った報告を茂木正地区国際委員長に御願います。

地区研修セミナー報告を出席者から御願います。

<本日の3月度理事会報告>

2009 - 10年度 RI 会長賞申込み 3月31日
もう1人の増強を
地区大会への積極的協力を
3月29日ゴルフコンペ参加者受付(ゴルフ部役員

も応援)

奨学生呉龍昌君の歓送会を3月25日夜間例会にて実施

春のイベント花見例会家族同伴で4月8日の夜間例会中野家にて実施

表彰規定の改正について

〔幹事報告〕

今泉憲治 幹事



みなさんこんにちは、それでは幹事報告をいたします。

下期の会費納入の件ですが、数名の方が未納です。お心当たりの方は早めに納入してくださいますようお願いいたします。

IM大会資料が届いております。事務局の机のところにございますので帰りの際にお持ち帰りください。

第2570地区R財団学友会から「学友会ニュース」が届いております。

第2570地区ガバナーエレクトより地区協議会開催の案内が届きましたので、次年度役員・理事の方は全員ご出席してください。

第2570地区第4グループ補佐よりIM大会出席へのお礼状が届いております。

ロータリーの友事務所より雑誌「ロータリー」が届いております。

以上で幹事報告を終わります。書類を回覧しますのでご覧ください。

〔挨拶〕
第2570地区ガバナー

加藤玄静 様



本庄 RC 次年度会長 戸谷清一 会長 エレクト



〔地区報告〕

ネパール訪問報告
地区国際奉仕部門 茂木 正 委員長
地区日豪青年相互訪問委員会 金子 章 会員



〔卓話〕

識字率向上月間にちなんで

第2570地区・地区支援グループコーディネーター
新狭山ロータリークラブ 小久保富夫 様



小久保 富夫様 プロフィール

新狭山ロータリークラブ会員

国際ロータリー 2570地区

地区支援グループコーディネーター

ロータリー歴

1987年新狭山ロータリークラブチャーターメンバー

1999～2000年 新狭山ロータリークラブ会長

2000～2001年 第2570地区職業奉仕委員

2001～2002年

第2570地区職業奉仕委員会 副委員長

2002～2003年

第2570地区職業奉仕委員会 委員長

2003～2005年

第2570地区増強退会防止委員会 委員長

2006～2007年

第2570地区第三グループガバナー補佐

2008～2009年

第2570地区研修情報 副委員長

皆様こんにちは、新狭山ロータリークラブの小久保です。本日は伝統ある本庄ロータリークラブの卓話にお招きいただき誠にありがとうございます。とてもたのしみにしておりました。高橋ガバナーに次いで今年度は加藤ガバナーを輩出され、本当に立派なクラブです。高橋ガバナーの時は地区大会でソングリーダーをはじめ沢山の出番を頂きましたなかでも歌舞伎座でのソングリーダーは一生の思い出です。今年度の加藤ガバナーとは私がI・Aの地区委員長の時顧問教師会の先生と東北高校を訪問いたしました。その時、葬儀のお勤めを終えてから夜遅く仙台のホテルまで一人で駆けつけてくれたくらいロータリーに熱心な方でやはりガバナーになる人だったんだなと思います。I・Aも当時は大変活発でこちらのクラブの関口さんとフィリピンへ一緒に訪問させていただきました。

3月は識字率向上月間。日本においては身近でないのに関心が薄いですが、識字と貧困は密接な関連がありま

す。世界銀行2001～2005年の報告書によると1億人が一日一ドル以下で暮らし、27億人が一日二ドル以下で生活しています。世界で亡くなる人の三分の一が貧困、又はそれに関連した原因だと言われています。また、1100万人の子供が5歳の誕生日を迎えることなく亡くなっています。

非識字者はどの地域に多いか インド 30.99%
中国 20.10% アフリカ 15.34% 東南
アジア 12.95% アラブ諸国 6.73%

母親の教育が大事で、世界の非識字者の三分の一は女性。これはとても危険なことです。なぜならば女性は子供に接する機会が多く、母親が非識字であれば、その子供はまた非識字になる可能性が大きくなるからです。したがって国連も、ロータリークラブも女性の識字率向上に力をいれております。しかしながら、インドやアフリカでは女の子を学校に行かせようとしない地域があります。それらの地域では女性は子供を産み、家の世話をしさえすれば良いと考えられているからです。母親に十分な教育を受けさせなければ、この地域に住む女性たちは読み書きのコミュニケーションを取る事ができません。そして母親が文字を読めない為に、毎年、何百万人もの赤ちゃんが命を落としているのです。おなかの中でも、脳の発達に悪い影響を与えます。現在世界人口の四分の一以上が読み書きが出来ないと言われます。貧困の為、何百万人が栄養失調に。「識字率向上」によってエイズ撲滅と麻薬撲滅。主にアフリカ、アジアに住む15歳～24歳の1000万人がHIVに侵されているとの事。昨年、11月全国識字のセミナーがありましたが、黒田RI理事の話で八戸南RCでは中古のコンピューターを韓国の姉妹RCを通して、親のいない家庭へ送っていますが、とても喜ばれているとのことです。途上国における学校建設、図書室の設置、図書、文具等の寄贈はハード面での人道的プロジェクトということができ、文字を教えることによって麻薬やエイズをなくす。識字の低い地域ではノート、紙、鉛筆をとて欲しがっています。文字を知らない為、農薬を飲んでしまう。「ドクロ」のマークで飲んではいけない事が解る程度。元コーディネーターの田中 毅氏は10代の女性の識字率向上により、読み書きソロバンの出来ることは、人口勃発を抑える唯一の方法であること。

秦野名水RCでは、消防署から払い下げて貰っている中古消防車を、タイに無料で贈っているそうです。2t車程度の消防車ならコンテナに2台入るそうです。船で送るのに25万～30万で送れるそうです。贈呈式の時には出席し、お土産にノート、鉛筆等を現地のショッピングで求めると日本の五分の一程度で買えるとの事です。今まで10年以上送っているそうですが、とても喜んでくれるので、やりがいがあるとの事です。第2570地区では世界寺子屋運動に支援していますが、世界寺子屋運動が始まるきっかけをつくってくれたのは、今年亡くなったマイケルジャクソンさんでした。1987年、ある日突然マイケルの関係者から「世界ツアーの一環として日本で公演をするが、何かユネスコ活動に役立つ寄付をしたい」という電話がありました。マイケル・ゴールドメダルの発行と愛用の品々をチャリティーオークションに出し、収益の全額を民間ユネスコ運動に、ということでした。その結果、1000万円を超えるご寄付を頂いたのです。「日本には海外の途上国支援をしている

NGOがたくさんあるのに、なぜ私たちに」と訊ねると、彼は小さな声で答えました。「皆さんの行動が“コアアクション”だからです。」協会連盟は、69年からコアアクション活動として途上国支援を続けていました。「上から物を与える“ギフト”ではなく、ともに行動し、ともに学んでいく。その精神が大切だと思う」とマイケルは言ったのです。ですからゴールドメダルには、マイケルの肖像と「for UNESCO Co-action」という文字が彫られました。3年後の90年は「国連識字年」でした。そこで、マイケルに頂いたご寄付は、世界の識字運動の資金として使おうということに。そして89年、青森で「国際識字年 NGO 行動計画世界会議」が開かれた時、「読み書きできないのは能力がないのではなく、学ぶ機会を奪われているからなのだ」と発言したのが、世界的教育学者パウロ・フレイレ博士です。当時はまだ日本国内にも非識字者が3パーセントいました。この人たちのことも忘れずに、博士の精神を受けて、世界寺子屋運動は多くの国内NGOも参加しスタートしたのです。

ここで、世界寺子屋運動についてお話しします。1990年、国連が決議した国際識字年で2015～25年間に読み書き計算の出来ない（非識字率）を無くするという運動がはじまった。世界人口60億人のうち約9億人もの人々が非識字者といわれております。当地区では識字率向上プログラムとして、1993～94年度よりユネスコが提唱している識字教育の一環である「世界寺子屋運動」に取り組み「書き損じはがき、未使用テレカ、一円玉募金、米、ビール券」などを収集し社団法人「日本ユネスコ協会連盟」に支援を行ってきましたが目にみえる支援活動を行うため2003年度よりNPO法人「埼玉ユネスコ協会」を通じてネパール学校建設（冠名学校）支援そして非就職児童を対象に里親制度（個人）の支援活動を推進してまいりました。これまでのネパール訪問クラブは次の通りです。地区WCS委員4名で訪問 所沢西、狭山中央、本庄ロータリークラブ。

最後にミャンマー寺子屋支援についてお話しします。2005年度よりミャンマー寺子屋支援に取り組み、ミャンマーでは寺院が学校として多く利用されており、寺院の修繕、教育、教材の支援として、ミャンマー大使館を通じて直接支援してまいりました。（2005年 20万円、2006年 20万円、2007年 30万円）公立学校はありますが、公立学校に通えない子供たちを教育する寺院を僧院といいます。2006年12月鈴木パストガバナーと金子パストガバナー補佐で支援している僧院を訪問する。モンジュン僧院 生徒520人 僧侶170人 シャビマーヤ僧院 生徒485人 僧侶37人 ボランティア先生15名 コンビヤン僧院 生徒735人 僧侶200人（建物は100年以上のものがほとんどです）。第2570地区世界社会（WCS）委員会では引き続き（寺子屋）（里親）（地雷で被害を受けた子供たち）への支援を行っていききたいと思います。当、本庄RC各クラブの地区国際部門茂木委員長さんが言っています「一人8600円で子供が一年学校へ通えます」と。皆様方のご理解とご協力をお願いいたしまして本日の卓話をおわりにします。ご清聴ありがとうございました。

〔ニコニコBOX〕

小久保富夫 様
「お世話になります。」

加藤玄静ガバナー
「小久保富夫先輩には、大変お世話になっております。
次年度地区研修委員として会員教育をお願い致します。」

茂木 聡
「「ふじ井」での夜間例会ご馳走さまでした。」

飯塚明男
「来月、地区大会です。みんなの力で乗り切りましょう。」

藤井 仁
「2月の夜間例会、有りがとうございました。」

関口礼子
「ようやくオリンピックも終了しました。ご苦労様でした。」

「今月は識字率向上月間です。小久保富夫地区支援コーディネーター卓話宜しくお願い致します。」

田中 克 横尾 巧 中村浩史 武井包光 井下 典
金沢喜作 橋本恒男 野村正行 金井直樹 狩野輝昭
下山正男 今泉憲治 杉山淑子 茂木 正 内野昭八郎
八木茂幸 矢島淳一 春山茂之 福島文江 渋谷修身
野澤章夫 石原輝弥 五十嵐敦子 佐藤賀則 中島高夫
戸谷清一 萩原達夫 梅村孝雄 竹並栄一郎 巴 高志
岡崎正六 笠原 勝 温井一英 澁澤健司

〔出席報告〕

会員数	出席免除 会員数	出席義務 会員数	出 席 会員数	出 席 率
69名	5名	64名	53名	93.8%

次回プログラム

3月11日(木) 午後12時30分
第2例会 埼玉グランドホテル
卓話

広聴広報委員会 矢島淳一・飯塚明男・岩淵富男・塚越 茂・笠原 勝・山田喜一

例会日 毎週木曜日 12:30～13:30

事務所 埼玉グランドホテル本庄700号

〒367-0041 本庄市駅南2-2-1

TEL 0495-22-7522 FAX 0495-22-3571

例会場 埼玉グランドホテル本庄

Eメール honjorc@themis.ocn.ne.jp

ホームページ

<http://www.globals.jp/hp/HRotary/index.html>